

NBRC における広報活動について —広く微生物を活用してもらうために—

山口 薫*, 岡田和也, 市川夏子, 福田 淳, 馬場新一, 清田純也,
神野浩二, 木井保夫

独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター
〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足 2-5-8

Activities of public relations in NBRC culture collection —To utilize microorganisms widely—

Kaoru Yamaguchi*, Kazuya Okada, Natsuko Ichikawa, Jun Fukuda, Shinichi Baba, Junya Seita,
Koji Jinno and Yasuo Kii
Biological Resource Center (NBRC), National Institute of Technology and Evaluation
2-5-8, Kazusakamatari, Kisarazu, Chiba 292-0818, Japan

1. はじめに

独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) バイオテクノロジーセンター (NBRC) は、財団法人発酵研究所 (IFO) より継承した微生物を中心に糸状菌、酵母、細菌、放線菌、古細菌、ファージ、微細藻類を保存している。公定法に使用される検定菌、比較参照用の基準株などを中心とした NBRC 株のほか、国内外より収集したスクリーニング用の RD 株を分譲している。

NITE は経済産業省所管の独立行政法人であることから、微生物の利用を通じてバイオ産業の発展に資することを目的に、広く NBRC 株や RD 株を活用してもらうための広報活動を行ってきた。

2. 指標の設定

まず、広報活動を行うに際し、「バイオ産業の発展」という目的を達成するために、その達成度を測る指標を設定している。また、菌株の収集に関しても、寄託者から依頼があって受け入れる受動的な菌株収集だけではなく、ユーザーニーズの高い菌株が学会等で発表されていたら寄託をお願いするなど、能動的な菌株収集を目指している。

今年度の広報活動に関連した指標は「微生物の利用件数；前年度比 2% 増、新規顧客開拓；新規利用法人

の割合が全体の 20% 以上、産業界からのニーズ等を踏まえた菌株の収集 300 株」である。分譲件数が増えることは微生物を使った研究開発が増えていること、新規顧客が増えることは微生物を使った産業に新たな企業が参入していることを測る指標となっている。

収集については、今年度「埋蔵菌」と称して、企業で現在使われていないコレクションや大学の先生の退官に伴い維持が難しくなった有用な菌株などを RD 株として収集を進めている。

3. NBRC を知ってもらう活動

具体的な広報活動の一つとして、「NBRC を知ってもらう活動」がある。バイオ系の展示会、学会ブース出展、メールマガジン、訪問営業がこれに当たるが、昨年度はさらにこれらの活動を効率的に行うための工夫として広報ツールの見直し、SNS の活用を行った。スクリーニング用の RD 株の利用者傾向より乳酸菌のニーズが高いと考え、乳酸菌を PR したチラシを作成した。日本防菌防黴学会では検定菌、食品・住環境汚染菌を PR したチラシを作成するなど、参加する学会ごとに客層を見据えたチラシ作りを行った。近年ではテレビ番組の撮影協力を行ったことを情報発信する際や、NBRC のパンフレットに掲載する微生物の写真を一般投票で選ぶ際にツイッターを利用した。また、「かずさの森の微生物教室 (次の章で説明)」を YouTube で配信するなど、NBRC を知らない人に知ってもらう活動に SNS を効果的に活用している。

*Corresponding author

E-mail: yamaguchi-kaoru@nite.go.jp

4. 微生物を取り扱うユーザーを増やす活動

広報活動の2つ目として、「微生物を取り扱うユーザーを増やす活動」、つまり教育普及、人材育成がある。これは、小学生や中高生向けの微生物の顕微鏡観察を含む実験教室「かずさの森の微生物教室」、NBRC株のユーザー向けのL-乾燥標品の開封方法や凍結標品の作製方法などの講義および実習を含む「NBRC微生物実験講習会」や最近のバイオ産業の動向等を踏まえた取組を紹介する座学の「NITE講座」、一般市民向けのNITE施設的一般公開である「NITEフレンドシップデイ」の開催が挙げられる。こういった活動は成果が見えるのに長い時間を要するものもあるが、微生物を取り扱うユーザーを増やすために地道に毎年行っている。

5. NBRCを知ってもらい、かつ微生物を取り扱うユーザーを増やす活動

さらに「NBRCを知ってもらう活動」と「微生物を取り扱うユーザーを増やす活動」の両方に当たる活動として、微生物に関するテレビ番組、博物館の展示協力や微生物画像の提供などがある。微生物に関するテレビ番組では、実験協力やサンプル準備のほか、専門家として微生物に関する解説を行った。博物館では、企画展でサンプル提供を行い、ミュージアムトークでは講師として解説を行った。微生物画像の提供では、ウェブページからNBRCで取得した微生物の顕微鏡写真（画像）をダウンロードで提供し教育普及など非営利目的に利用できるようにしているが、これまでに教育用の読み物やテキスト、テレビ番組、博物館の展示や美術展の装飾などに提供した画像が利用されている。これらの活動は一般に広くNBRCや微生物を保存する機関があるということを知ってもらう機会となり、また、教育普及から将来のNBRC株のユーザー育成につながると考える。

6. 事業成果のPRが広報につながる活動

NBRCで行っている事業の成果をPRすることが広

報につながるケースもある。たとえば、NBRCで行っている地域産業振興支援事業では、公設試験研究機関と連携して地域ブランド商品として日本酒を開発した。その日本酒をPRすることで「NBRCを知ってもらう活動」となり、この成功事例が他の地域へ展開することで「微生物を取り扱うユーザーを増やす活動」につながっている。また、生物資源に関するさまざまな情報をワンストップで検索できるデータベース「生物資源データプラットフォーム (<https://www.nite.go.jp/nbrc/dbrp/top>)」を構築、公開したが、これにより微生物活用の利便性が上がり、結果的に「微生物を取り扱うユーザーを増やす活動」につながると考える。

7. 今後の課題

2018年度の広報活動に関連した指標は本年度と同様で、「微生物の利用件数；前年度比2%増、産業界からのニーズ等を踏まえた菌株の収集300株」であり、どちらも達成した。見直しを行ったチラシを活用して精力的に訪問営業等を行うことで新たな菌株購入につながるなど、これまでの活動は指標達成に一定の成果を上げている。しかしながら、「バイオ産業の発展」という本来の目的よりも数字が先行してしまった部分もあったのではないかとこの反省もある。数字以外で成果を評価するのは難しいという点もあり、結局、本年度も新規顧客開拓の新たな指標を設定しつつも、同様に数字での指標となっており、数字以外で成果の評価ができないかが今後の課題になっている。

8. おわりに

広報活動はカルチャーコレクションにとって、組織内外に対してコレクションの価値を向上させるための重要な活動である。これまでの活動で見えてきた課題を検討しつつ、NBRCでは引き続き広く微生物を活用してもらうために活動を行っていく予定である。